

はてなの缶詰

鎮静剤や鎮痛剤を使用した内視鏡検査を受けるとき、車や自転車で来院できないのはなぜ？



近年、胃や大腸をはじめ、さまざまな部位の検査に使用されるようになった「内視鏡」。内視鏡で検査をする際、病院から必ず患者さんをお願いしていることがあるのをご存じでしょうか？

多くの患者さんは 楽な内視鏡検査を希望

内視鏡検査とは、先端に小型カメラを内蔵した太さ1cmほどの管を口や肛門から挿入し、食道や胃、十二指腸、大腸の内部を観察する方法のこと。検査の際に痛みを伴うこともあるので、多くの患者さんは、楽に検査が受けられる「鎮静剤や鎮痛剤を使用する内視鏡検査」を希望されます。



鎮静剤や鎮痛剤の影響が 帰宅中まで残ってしまうことも

知っておいていただきたいのが、鎮静剤や鎮痛剤の効果について。鎮静剤は眠気を誘う作用があり、また鎮痛剤は痛みを軽減する作用がありますが、薬剤の効果は検査が終わっても続くため、しばらくの間「リカバリースペース」で横になって休憩する必要があります。

休憩に必要な時間は鎮静剤で約2時間、鎮痛剤で約30分。ただ、しっかりと休憩しても、まれに家に帰る途中で眠くなった、気持ちが悪くなったりすることも。もしこのような症状が車や自転車を運転しているときに出現してしまうと、大きな事故につながるかねません。そのため、鎮静剤や鎮痛剤を使用する内視鏡検査を希望される患者さんには、必ず公共交通機関での来院をお願いしています。

鎮静剤や鎮痛剤を使用する際は、他にも何点か注意していただくことがあります。分からないことがあればお気軽に内視鏡センターのスタッフにお尋ねください。